

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成27年11月30日現在

今月の重点活動

■えだまめ、いちご等 **GAPアドバイザー派遣講座を開催**

11月17日、県農産園芸課主催の県GAPアドバイザー派遣講座が開催され、既に独自GAPに取り組んでいる岐阜市園芸振興会のいちご、えだまめ、ほうれんそう、だいこん部会の生産者など21名と関係者14名が参加した。

一般社団法人日本生産者GAP協会の田上事務局長から、日本GAP規範に基づく農場評価制度について、作業場でのヒヤリング方法の演習と、農場評価結果を踏まえたリスク評価の方法、視点や改善計画の作成などについて説明があった。今回の調査農家での農場評価結果は、615点とまずまずであったが、直ちに又は早期に改善すべき事項が複数あり、これらをまず改善して欲しいとの指導があった。

農業普及課では、GAPの取り組みをステップアップさせるため、この派遣講座の開催を生産者に周知するとともに、受講するよう働きかけるなど支援を行った。今後は、本年度の現地調査結果を踏まえ、現地調査方法の改善や評価基準の見直しなどを提案し、一層GAPの取り組みを加速させる予定である。
(園芸産地支援第一係・近藤 勝)



【GAP派遣講座の様子】

活力ある新産地づくり

■秋冬ブロッコリー **出荷がスタート**

J Aぎふブロッコリー生産連絡協議会では、10月28日より平成27年度産の出荷が始まった。長雨によるほ場の準備や定植の遅れはあったものの、ほぼ平年並みの開始である。11月9日には、目揃え会が開催され、規格遵守と選別の徹底が図られた。

岐阜ブロッコリーは、必要とされる時に出荷できる産地を目指しており、今後4ヵ月間の品質を守るため、農業普及課では各作型ごとの生育状況に応じた管理方法について指導している。
(地域支援第一係・稲葉千佳)



【目揃え会の様子】

売れる農畜産物づくり

■いちご **目揃え会を開催**

11月12日はJ A糸貫支店、14日はJ A合渡支店において、いちご目揃え会が開催され、市場、J A全農岐阜担当者からの情勢報告を受け、農業普及課から、温度管理、病虫害対策、摘果の徹底、親株の管理など栽培管理のポイントについて指導した。

今年の出荷は、10月28日から始まっており、昨年よりも早い傾向となっている。なお、頂果房の出荷ピークは、12月上中旬となる予測である。生産者は、出荷規格についての認識を新たにし、これから始まる出荷に向けて気を引き締めていた。

今後、他地区の部会においても、目揃え会が予定されており、農業普及課からは、安定生産に向けた栽培管理のポイントについて指導する予定である。
(園芸産地支援第一係・渡辺新一、遠藤るみ子)



【目揃え会の様子】

■ネギ **目揃え会を開催**

11月1日、羽島市青葱の目揃え会が開催され、生産者が持ち寄ったサンプルにより出荷規格を確認した後、本年度の栽培管理の概況について意見交換を行った。

羽島市の青葱生産者は女性が多いことから、女性でも対応できる病虫害防除体系を検討して欲しいとの要望が出され、農業普及課から当面の対応について助言を行った。

また、新規栽培者の確保に向けて、次年度から、部会長を塾長として「ねぎ塾」を新たに開催することになり、農業普及課で



【目揃え会の様子】

は、防除体系の見直しとともに、「ねぎ塾」の取り組みを支援していく予定である。
(地域支援第二係・森 俊彦)

戦略的な流通・販売

■加工用たまねぎ 定植スタート

本巢市のアグリ石神では、11月16日から、加工用たまねぎの定植を開始した。本年は、昨年約2倍となる1.9haを作付けの計画であり、前日までの雨で、ほ場の状態は良くなかったものの、全自動定植機を利用して50aを植え付けた。

定植機を利用することで、定植時間は半減することができたが、セルトレイ内の欠株が多く、昨年より補植数が増えるなど、問題も明らかになった。

農業普及課では、作業体系に基づく栽培の提案、情報提供等を引き続き行っていく。
(地域支援第三係・横田京子)



【全自動定植機による定植】

多様な担い手の育成・確保

■中山間地の集落営農 山県市青波地域

11月12日、山県市青波地域での集落営農システム確立検討委員会メンバー（地域役員、山県市、JAぎふ、農林事務所）と、青波地域の集落営農に意欲のある地域住民が、恵那市岩村町の(株)岩村営農を視察した。

農業普及課では、集落営農の法人化のみが目的ではなく、その後控える組織の若返りも重要と考え、その両立を果たした先進事例として(株)岩村営農を選定しており、今後も当地域での法人化へ向けた取り組みを支援していく予定である。

(地域支援第三係・吉田一昭)



【現地法人からの説明】

魅力ある農村づくり

■かき かき農家が自ら行う獣害捕獲の支援

今年、岐阜市網代地区で、6名のかき生産者がわな猟免許を取得している。わな猟を行うに当たっては、狩猟者登録を行うとともに、猟具を入手する必要があるため、捕獲した害獣の止め刺し、獲物の処理方法などにも不得手なため、わな猟を行うことに二の足を踏んでいる。

11月18日、重点支援を行ってきた円蔵洞地内において、鳥獣被害対策専門指導員とニホンジカを捕獲するくくり罠を3台設置した。

今後、ニホンジカの捕獲を待って、止め刺し、獲物の処理を実演し、かき生産者がわな猟に組みやすい雰囲気づくりを進めることとしている。
(園芸支援第二係・青山 哲)



【かき生産者に罠について説明】

県民みんなで育む農業・農村

■えだまめ 小学生の学習を支援

11月24日、梅林小学校3年生の社会科学習「農家の仕事」において、農業普及課職員が講師となり、1クラス21名を対象に授業を行った。これは、岐阜市の特産品である枝豆栽培について、教科書では伝えることが難しい、生産者の苦労や努力、普及指導員の「仕事」を、子供たちに伝えて欲しいとの依頼を受け、実施することとなった。

授業の中では、なぜ防虫ネット栽培に取り組んでいるのか、おいしい枝豆を安心して食べてもらうために、産地で取り組んでいる工夫などを織り交ぜ、説明を行った。

子供たちは、時折、目を丸くしたり、「えーすごい」といった声を上げるなど、関心の高い様子で授業を受けていた。
(園芸産地支援第一係・川部 知)



【えだまめ授業の様子】